

第18回北海道発明工夫教育 連盟研究大会・10周年記念 北野台中学校研究大会開催

事務局 吉田

11月22日、札幌市立北野台中学校で第18回北海道発明工夫教育連盟研究大会・10周年記念北野台中学校研究大会が開催されました。

インターネットを利用した調査・研究学習において子どもたちの創意工夫をいかにして育てていくかという側面もさることながら、教師ではない一般社会人が教室に入って学習支援を行う、という要素において札幌の教育界の中でも新しい試みの研究大会でした。

研究大会を終えて

北野台中学校 尾崎 廉
ozakiys@nikonet.or.jp

研究授業までの約一月間なしの状態であれこれ(たこやじになる時間はあるらしい)思い悩んでいたが、終わってみると、自分以外の方の使われた労力が莫大であることに気づき嬉しいやら申し訳ないやら複雑な気持ちになった。しかし、この授業がそれぞれの人に問題提起をし、学校が変わっていくほんの少しのきっかけになれば、また、学校にインターネットをという我々の共通の願いに近づけばと考えている。支援してくださった方たちに心から感謝したい。

今回の授業は技術家庭科の授業として位置づけた。授業に6時間配当し、「グループ学習」の形態でテーマに沿って6つのグループが、最初に新聞を使い、テーマを絞り込み、その後、インターネットを活用して課題を解決しまとめをするということで、「環境問題」について考えることにした。



支援者で助言者の榎谷さん。

- ・ 1 時間目・身近な情報を集めてみよう
グループで大きなテーマを決め、新聞を使って環境問題についての記事から必要な情報を集める新聞は各グループ2週間分用意した。
- ・ 2 時間目・集めた情報をもとにまとめてみよう。
集めた情報を整理、分類しわかりやすい発表物を模造紙を使って作成する。それぞれのグループのテーマは以下のようになった。
 - ・ mononoke リサイクルとゴミ問題
 - ・ pritt あまり知られていないリサイクル
 - ・ momo 温暖化について
 - ・ penchyn ダイオキシソ
 - ・ aizu 海の汚れについて
 - ・ panda リサイクル
- ・ 3 時間目・インターネットを使った情報収集の方法を知ろう。
インターネットに接続しディレクトリー型検索とロボット型検索を使いそれぞれの特徴を理解し実際に情報を探してみる。
- ・ 4 時間目・実際にインターネットを使って情報を集めよう。
(支援活動) 今回の研究会はこの部分の授業である。

生徒は、授業支援者との交流を図りながら、情報収集を実際に行い、情報の整理のしかた、分類のしかた、活用のしかたなどについてネットワークの「技」を知り、実際に自分たちが課題を解決していく方法を見つけだすという課題を設定した。

この日のために、ACE北海道・NCF97などの一般社会の人々や教職員が30名以上この授業の支援をしてくださり、役割分担をして授業準備をすすめた。

今思えば、研究紀要の原稿から印刷まで、機材の設定から授業の準備まで、多くの人が北野台中で深夜まで作業を続けるという血と汗と涙抜きでは語れないものとなった。

この日は、研究授業ということで各グループに3台ずつパソコンが用意され、多目的教室、コンピュータ教室、第1音楽室、第2音楽室の4つの教室を特設して授業を展開した。多くの生徒は、昼休みからコンピュータに向かい、授業支援者との交流も行われ



まずは下調べ。ひたすら新聞を切り抜いています。

ていった。

特別な臨時回線とプロバイダが用意され、生徒からは「いつもと違う。こんなに速い」という声がでていた。

授業支援者の皆さんとは、メーリングを使い、事前の打ち合わせを繰り返した。(授業までの電子メールの総数は約500通)さらに、オフラインの打ち合わせも3回持った。これにより、各担当者の役割と動きを綿密に調整していった。

生徒、支援者とも緊張の中、授業は開始された。

最初に、多目的室にグループ毎に集合し、今日の課題の確認と作業の進め方について説明を受けた後、それぞれの教室に行ってインターネットへの接続を始めた。

生徒たちは、テーマに添って検索を始めた。検索の仕方によっては膨大な情報が集まったが、支援者のアドバイスで徐々に検索のシステムを理解していった。

授業中なるべく教授せずに、生徒が困った時に適切なアドバイスをするよう依頼してあったが、生徒の意欲的な活動に支援者は驚いていた。「困難な場面が何度かあったが、その時にまず自分たちで考えようとする。どうしてもわからなくなったら支援者に声をかけ質問をする。」

「生徒が一生懸命学習する姿に感動した」こんな声も聞かれた。

授業者は、多目的室のコンピュータでWebNOTEで教室の様子を見ながら電子メールなどで指示を出すという方法で授業は進行した。

このときWEBNOTEにデータを送り続けた、ACEチームは、過去に経験を持つ最強のメンバーで授業の様子を確実に送り込んでくれたが、授業者の尾崎は何を勘違いしたのか、生徒にメールを出せずにあせっていた。後で調べたらエラーメールが9通もあったとか、何とも情けない状態であった。



尾崎先生。大勢の生徒を前に。

また2台のフェニックスワイドも大活躍し授業の様子や多目的教室の様子を映し出し、浜益中学校、虹別中学校、大成高校に中継された。これらの画像、音声、TEXT情報を通して生徒たちが、専門の知識を持った善良な市民との交流を通して、普段の授業では体験できない多くのことを学んで満足そうな表情が伝わってきた。

また、さらに、深く調べてみようという意識も高まり、環境庁に質問のメールを送った生徒もいたらしい。

生徒も支援者もすっかり慣れ親しみさらにもっと調べてみたいというところでこの授業は終了した。

支援者からは、今後も生徒のこの活動に協力したいという声もでて、電子メールで生徒との交流が始まりそうである。この授業

は生徒たちに大きな満足感と成果をもたらした。授業が終わった後の生徒の顔がいつになく輝いて見えたは私一人ではなかったような気がする。

今後、情報を分類整理し発信する方法を考えよう。ということではhtmlを使ったホームページ上で情報の発信方法を学習し、さらにまとめた情報を整理しわかりやすくするための方法について考える。最後に「実際にホームページを使ってまとめた情報を発信する」というまとめを来年の3月までに完成させる。まとめは北野台中学校のホームページに掲載される予定である。

(<http://www.nikonet.or.jp/daichu/>)

この後、研究協議に入り真剣に話し合いがもたれた。発明工夫教育連盟の柴田事務局長によれば研究協議に71名もの参加があったのは珍しいとのことであった。

一人で考えていても何も進まなかったことが、大勢の人々の協力でこんなにもスムーズに出来たことに目標が同じ人々のチームプレイのすばらしさをつくづく感じた。

もちろん課題や問題点は山積みだったことは感じている。わがままな発言や言いたい放題のお願いで迷惑に思った方もいるのは間違いない。自分なりにしっかり反省してみたい。

関連URL

□北野台中学校

<http://www.nikonet.or.jp/daichu/>

□研究授業リアルタイム速報

<http://www.hokkaido-np.co.jp:8080/ACE/clip/hatsumei/hatsumei.html>

□授業計画と内容

<http://www.ncf.or.jp/wg/education/hatsumei/index.html>

NCF 教育フォーラム「明日の教育ネットワークを考える in 札幌」報告

道都大学短期大学部 野口光孝
nogu@netfam.or.jp

11月22日午前9時からNCF教育フォーラム「明日の教育ネットワークを考える in 札幌」が開催されました。あいにくの雨のため参加者が予想を下回りましたが、前日の北野台中学校における公開授業の熱気も影響したのでしょうか、会場となったネットワークプラザにも熱い風が吹き荒れました。開会宣言のあと「NASA/COTFにみる未来の教室」と題して私のほうから視察報告もかねて講演させていただきました。その後休憩をはさんで午前10時15分ころから、アメリカWestvirginia州にあるWheelingJesuit大学構内NASA/COTF教育学センターからテレビ会議システムを使って、COTF最高責任者のダニエル・ミラー博士に特別講演をしていただきました。前回6月にはCOTFの施設をVirtualTourと称してRealplayerで紹介していましたが、今回のミラー博士の講演の様子もRealplayerを使いインターネット上で見る事ができたのであります(ただし、通訳なしですが)。

今回の講演はCOTFのテレビスタジオを使い撮影していたのですが、ブルーバックのクロマキー合成を使って、ある時は教育学センターを、またある時はテレビの天気予報を、またあるときは4分割画面をバックにミラー博士が話すな～んてことをやっていました。そうそう、プレゼンに使っていたマシンをワイヤレスマウスを使って操作しました。あのマシンたぶんPB3400だと思

います。

現在 COTF では、ビジュアルな環境を使った遠隔地に対する教育の研究に力を入れており、インド、トルコ、ネパール等との実験を計画しているそうです。ミラー博士は、これからの教育ネットワーク構築のベース技術として映像データ転送のため Gbps、Tbps などの高い転送レートの実現が重要であるとおっしゃっていました。なお、この講演内容については後日くわしくお話ししたいと思います。



こっちがやっと追いついたと思ったら向こうはクロマキー背景で現れるし。

ミラー博士の講演の後、「北海道における学習ネットワークの未来像」をテーマにパネルディスカッションが行われました。コーディネータは武田先生、パネラーは尾崎先生、高瀬先生、NTT 札幌支店の見付さんと私の 4 人。会場に来ていた高校の先生から、情報教育におけるプログラミング教育のあり方についての質問が出され、「今の情報教育に本当に必要なものは何か」という本質的な部分のディスカッションへ話が展開していきました。もっとたくさんの人に参加してもらいたかったのであります。それが残念。

岩見沢市へき地複式教育研究 大会に参加

事務局 青柳

11月6日、岩見沢市立上志文小で開催された「岩見沢市へき地複式教育研究大会」に、吉田編集長とともに参加しました。

われわれ民間企業にいる者にとっては聞き慣れない研究会ですが、全国には多くのへき地複式教育連盟があり、同様の研究会を開催しているということを知りました。上志文小学校は5学級39名の編成で、平成11年4月には隣接の朝日小学校と統合し、校舎も現在の木造（瀬戸内少年野球団の学校のような）から新築校舎に変わります。

なぜ上志文？と感じてしましますが、実は同校は平成7年から道教育大岩見沢校の「ICE プロジェクト」（道教育大と市内の小・中・高等学校をインターネットで結び、学習利用を实践するプロジェクト）に参加しており、インターネット活用を模索しています。今回のご案内も、道教育大岩見沢校の村端先生にいただいたものです。

さて当日の公開授業ですが、「西洋に追いつき、追い越せ～インターネットの可能性～」というテーマで、加藤先生の担当で6年生の社会科の授業が行われました。内容は、鎖国当時の黒船来航にまつわる事件を題材に、この事件に関わった人たちの気持ちを

各自が考え、朝日小学校の児童とフェニックスを使って交流、発表をするというものです。

「フェニックス使っというて、どこがインターネットなんだ？」と思われるかもしれませんが、同校は平常からインターネットを活用した調べ学習、メールを活用した他校との交流などの実践を行っており、今回はそうしたなかでの一つの取り組みなのです。

また、特徴的だったのは「すこやかタイム活動」として、休み時間に学年の発達段階に応じたインターネット・リテラシー育成の活動をしていることです。具体的には、低学年ではひらがな・カタカナの学習、中学年ではアルファベットの学習、そして高学年ではローマ字入力のキーボード操作に慣れる、といった具合です。

授業に続いての研究協議では、「へき地教師のうた」の斉唱のあと、30名以上の参加者がそれぞれの立場からインターネット学習の可能性についての意見を交わしました。時間がなく、参加者から出された導入に否定的な意見に対する上志文小の見解はうかがうことができませんでしたが、研究集録を見る限りではインターネット導入による「影の部分」も十分に考慮した上で最低限のルールを児童と決め、あとは自由に使いしめることを基本方針にしているようで、各種研究会で後ろ向きな意見を聞き飽きている私はたいへん共感したのでした。



PowerPoint でデモしながら熱弁を振るう上志文小・加藤先生

研究会終了後、村端先生と一緒に岩見沢自治体ネットワークセンターを見学してきました。目玉は下りは衛星、上りは ISDN を利用した双方向の共同学習システムで、市内学校との遠隔授業交流が企画されています。千歳 CMMIC と同じく省庁のお金を大量に投入してきたセンター、活用しなければただの箱です。教育大と連携して、ACE から活用アイデアを提案したいと思います。（研究大会の集録は事務局にありますので、ご覧になりたい方はご連絡下さい）

追記：（事務局・吉田）

空知地区では最盛期 400 校あった公立学校が半数以下の 180 校になり、さらに前述の統合のように数が減りつつあるのが現状です。その状態をふまえて、ネットワーク教育、遠隔地授業というものがどのような意味を持っているのか、COTF などの様々な取り組みを参考に、我々が考えていかなければいけないことは多いと思います。札幌から車で 1 時間かからない場所なのに、こういう学校もあるのだ、ということを含め知らずにいたことを正直、恥じ入ってしまいました。

● 携帯電話とインターネット

北海道札幌新川高等学校
商業科 西田 典博

E-mail: nishida@shinkawa-hs.kita.sapporo.jp

今回、携帯電話とデジタルカメラを見学旅行に持参をして見学場所から旅館からリアルタイムにノート型パソコン(NEC Lavie PC-9821nw133)より本校のサーバーに転送をして事前に作成していたウェブボードに取り込まれるように計画し実際に行いました。見学旅行の事前段階で成功していたので心配もなく転送ができました。

この計画に際し2つの目的がありました。

- (1) インターネットをこれからも使用していくことに際して新しい使用方法の発見と試み。携帯電話とデジタルカメラを使用する事によりマルチメディアに理解と興味をもたせる。
- (2) 学校に残っている生徒・教員に見学旅行のようすを伝えメールのやりとりで状況報告の確認をした。来年の見学旅行対象生徒の2年生に興味を促すことも目的の一つであった。

使用方法

デジタルカメラで写真をノート型パソコンに取り込み携帯電話を使用してサーバーに転送させた。

感想

私自身携帯電話の有効利用について非常に興味がわきました。生徒にも新しい利用方法として勉強になったと思います。

● モバイルで何ができるのか

北海道札幌新川高等学校
商業科 吉岡 隆

E-mail: yoshioka@shinkawa-hs.kita.sapporo.jp

10月18日の全日制的修学旅行から始まり、11月の定時制の修学旅行までACEモバイルキットをお借りしてWebNoteClipでのレポート作りを行ってきました。コンサドーレ中継ですでお馴染みのシステムでしたが、いろいろ考えていくと結構面白いことができそうと思いました。

携帯電話は全国ほとんどの場所で使えるのですが、通信速度が28800bpsに早く移行することを期待しています。RealVideoのエンコーダーもこの速度は確保する必要があるのではないのでしょうか。通信速度が上がると通信時間が短くてすみますし、パケット通信に対しての課金であれば、コストの面でも有利かと思っています。

文部大臣の発言もあり、インターネットにすべての小、中、高校が接続する日は具体的に見えてきた今こそイントラネットと校内LANを構築していく時ではないかと思っています。

12月より、イントラネットとしてFirstClassを導入します。また近い将来、校内LANとしてwirelessの活用を考えていますが、携帯もPIAFSのように内線電話方式のwirelessが実現できないかと思っています。

新会員紀行

株式会社インターネットイニシアティブ・札幌支店
田中 真一

s-tanaka@sapporo.iiij.ad.jp

「ACEって何ですか」ある人によるとApple Computer's Educationalとか、武田先生に至ってはアンタッチャブル...とか言うらしい。そんな実態不明な団体に参加することになったIIJの田中です。よろしくお願いします。

IIJは日本初の商用プロバイダとして有名ですが、たかが会社設立4年にて「老舗」と呼ばれております。この業界における技術革新のスピードは異常な程早く、社員の我々すら毎日知らない単語を耳にする機会が多い。世界の誰かが作った単語や考え方が3日後には常識として通用している「特異な業界」であります。

よく巷では「インターネットって難しい」という声を聞きますが、ずばり、習うより慣れろ、これしかありません。パソコンって難しいと思われる方にも同様に言えるのですが、パソコンやインターネットの類は決して人から教わるものではありません。想像しながら自力で問題を解決し、自分なりの使用方法を確立していくものです。



田中です。みなさんご存じないかもしれないけど僕ってMac派なんですよ。

勿論、見える形にしていけるために参考書を買ったり、知っている人を捕まえて聞く等工夫しながら会得するものです。現在、パソコンや通信を良く知っていると言われる人は実はこのようにして会得しているだけなのです。それも他人より早く会得することで他人に教えられることで「よく知っている」とされているだけなのです。

技術革新が早いことは先程書きましたが、業界の人間ですら明日の技術(ソフト)の姿は判りません。何とかという会社から発売されればそのソフトをいち早く入手し、「こういうコマンドをこうしたらこうなるだろう」とトライ＆エラーを繰り返しているに過ぎないのだ。しかしここで落ち着いて考えて頂きたい。

この手の考え方、取り組みは何も「コンピュータ」という特異な存在に限ったことでは決していないはずだ。日常、先生たち自らが教え実践していることではないだろうか。よくインターネットは道路に例えられるのですが、ユーザが車で目的地を目指し、走ろうとした時、我々一般人は当然ながら左車線を走出すであろう。しかし、インターネット(世界)の常識は右車線を通ることが常識となっており、走出したらまずその違いに驚き、同時に地球規模の概念とは何かを感じることでしょう。

インターネットとは、1本の線を複雑な網状にて全世界を張り巡らせているものです。これは皆さんなら既に良く知っている「常識」ですが、我々日本人がよしとしていた今までの概念が必ずしも通用するものとは必ずしも言えないことは案外知られていない気がする。その証拠に平気で左車線を通ったり、右折禁止を無視したりしている等のケースが多々見られるからです。車に乗ればその国の交通モラルやルールを考えて運転するのに、インターネットでは相変わらずモラルや最低限のルールすら無視しているケースが多く見られます。

子供たちはとっての未来において大事なものは、コンピュータやインターネットなどの操縦技術の習得ではなくモラルや世界の価値観、柔軟な対応ができることである。そのための指導方法は従来とは違った取組みによって日々変化しているもの、つまりインターネットを代表とする全世界の価値観の変貌を常にウォッチし会得しておかねばならないのは既に「常識」となっている。

このACEでの取組みは、そういった「常識」を常に切磋琢磨しながら共同研究を行え体験できる場と考えております。現場からのニーズ、世界の技術動向、地域での取組み方、それらをどう現場へ還元できるかを探りたいのです。

未来の主役に対してのプレゼンターとしてのACEの役割りは大きいと考えます。その一員として微力ながらも応援し続けたいと思います。

POEM '98 in ASO 始動！

いよいよPOEM'98が始動しました。ACE Netに吉富先生がプロジェクト企画書案をアップしてくれたので、抜粋して転載させていただきます。阿蘇で暴れるのが今から楽しみです。

POEM'98 in ASO テーマ：思い出してみませんか伝える楽しさを

■開催趣旨 私たちは、子どもたちが豊かな心を持った大人になってほしいと願っています。私たちはコンピュータを使った教育を考えるにあたって、子どもたちを中心にします。子どもたちとともに、子どもたちの目が輝くような、子どもたちが生き生きしてくる学校をつくりたいのです。

私たちは、自分たちの楽しい経験を子どもたちに伝えることが楽しいのです。

私たちに今何ができるのか、これから何をしていくのか、いっしょに考えましょう。家庭や学校でコンピュータをどう使ったら良いのか、いっしょに考えましょう。「先生、こんな学校にしよう。」という子どもたちの声が聞こえてきませんか。

■テーマ 思い出してみませんか伝える楽しさを

だれしも子どもの頃、田舎で遊んだことを思い出すことがあるでしょう。自然の中で遊んだように、コンピュータで遊んでみませんか。遊びから学んだ事がたくさんあるはずです。地域・まち・暮らしの場・学校、すべてが、子どもたちにとって学びの場なのです。おとなにとっても、子どもにとっても、伝えることは楽しいことなのです。

■いっしょにやってみましょう

・家族でおいでよ

コンピュータは、おとなだけのものではありません。家族みんなで参加してください。おとなも子どもも、みんなで楽しみましょう。

・困っている人集まれ

子どもたちとともに、コンピュータをどう活用するかいっしょに考えましょう。

■主 催 ACE（教育とコンピュータ利用研究会）
共催予定 KARRN（九州地域研究ネットワーク）協会
後援予定 文部省・熊本県教育委員会・熊本県市町村教育委員会連絡協議会・熊本大学・熊本日日新聞社・NTT熊本支店・他

■開催日時 1998年8月7日(金) [6日(木)準備]

■開催予定地 グリーンピア南阿蘇（熊本県阿蘇郡久木野村）

<http://www.kings.co.jp/green/gmain.htm>

■対象者 学校関係者および教育とコンピュータ利用に関心を持つ人

■参加予定 500人 うち宿泊客200人程度

■プログラム 1 もう始まっています、未来の教室
2 ここで使おうコンピュータ
3 こどものじんち

■内容について

1 もう始まっています、未来の教室

1) 講演「マルチメディアで学校革命」鈴木敏恵氏

未来の教室はもう始まっています。先進的な学校では、いろいろな実践がなされています。それらを織りまぜて、あるべき未来の教室の姿について提案してもらいます。未来を念頭に置きながら、今できることを進めていくことが大切なのです。

2) 教室提案：企業展示/模擬授業（会場は企業の展示場所も兼ねる）

未来の教室を会場に作ります。環境はACEと企業とで共同提案します。実践をもとにした提案をします。教室を使った模擬授業や、児童生徒によるプレゼンで、未来の教室を体験してもらいます。（発表予定者に、事前に教室で検証してもらい、その結果を当日報告する）

2 ここで使おうコンピュータ

1) 学校でこう使いました（授業実践発表/公募）

現在の学校でのコンピュータ活用は、導入されている機材に応じて色々な段階があります。それぞれの段階を追って、先生方が日ごろ授業で活用しておられるようすなどを、具体的事例・失敗例をあげながら発表してもらいます。また、児童・生徒が自分たちの活動のようすを発表します。（県からもニュータッチ計画/熊本県情報システムのプロモーションを）

2) 困っている人あつまれ

先生、教育委員会、親、それぞれの立場でコンピュータ導入にあたって困っていることがあると思います。これらを皆で考える場を作ります。

・先生：いまあるコンピュータをどうつかうの？ 学校にコンピュータを入れるには何処にどう働きかけるの？ 学校でインターネットをするには何が必要なの？いくらかかるの？授業でどう使うの？

・教育委員会など（設置者側）：コンピュータを各学校に導入するとき、どんなシステムをいれたらよいのか。先生方の研修のすすめかた。

・親：家でコンピュータを買わなきゃいけないの？ どんなソフトがあるの？

3 こどものじんち

子どもたちと一緒にコンピュータに触れてください。自然の中で遊んでください。

・スポーツホール

コンピュータで遊ぼう・インターネットで遊ぼう・おもちゃで遊ぼう・外（アスベクタ遊具/要使用料）

*全文はACE-Net・幹事会のフォルダに入っています。

1997 年度第 4 回支部 定期総会のお知らせ！

1997年度第4回ACE北海道支部定期総会・教育研究会を、下記の日程で行います。皆様多数の参加をお願い申し上げます。

記

- 日時：1997年12月13日（土）14:00～
14日（日）12:00まで（一泊二日）
- 会場：北海道青少年会館
札幌市南区真駒内柏が丘 電話011-581-1141
- 内容：
（13日）
14:00～17:00 研究会
17:00～19:00 入浴、夕食
19:00～20:00 総会
（97年度活動報告・会計報告、98年度活動計画・活動予算案、役選）
20:00～ 懇親会
（14日）
水泳・卓球・剣道ほかスポーツをたしなみ、解散
■費用：宿泊費2900円、夕食1500円、朝食700円
（2段ベット、6人部屋 う～ん、ACEらしい！）

参加希望の方は、事務局までメールまたはお電話で。

（aoyagi@hokkaido-np.co.jp、011-210-5506）

施設の空き状況の関係で、先着20名までです！！
研究会発表、活動報告を募集しています！

さて、今回の研究会はインターネット、マルチメディア、モバイルという今まで積み重ねてきた諸々のことをふまえて、今一度教育を基本から語る時期に来ているのではないかと、という路線で進めていきたいと思います。

ACE5年目の活動を考えていく上でも、一つ節目にしていかなければいけないのではないのでしょうか。

まだまだ余裕がありますので、宿泊、日帰り参加問わず、ふるってご参加ください。

編集後記

最近教育者の顔つきになってきました（うそ）

いろいろな話を聞くにつけ、学校教育の在り方について疑問がでてきているのは私だけではないと思います。ひょっとすると、我々「非・教師」でもこれを変えていける余地があるのではないかと、ということをご数回のいろいろな研究会で実感しています。

コンピュータもネットワークもそれ単体では何の変化ももたらしません。教育をダイナミックに変えることができるのは教師、非教師問わず、「ひと」なのだなと思っています。（吉田）

COTFとのイベントも終わり、ホッと一息です。COTFは宇宙で人間が生活する時代を見据えた教育プログラムの開発を行っています。そこでのノウハウが、現在は地球全体を対象とした遠隔教育プログラムの開発に活かされているようです。なんだかすごいんですが、すごいとばかり言わないで、われわれの

身近な問題の解決にどんどん役立てていきたいと思う今日この頃なのです。（野口）

みなさんこんにちは！札幌音楽専門学院の見澤です。

先日、初雪をみました。これからまた寒い冬が来るかと思うと楽しみです。ん？

先月もお知らせしましたが、札幌音楽専門学院の学生達主催のコンサート「第18回トライアルコンサート」が来る12月8日（月）午後4：00より、本学院3Fホールにて行われます。

学生達もみなさんのたくさんの御来場を楽しみにしております。クラシックからコンピュータミュージックまで幅広いジャンルの曲をお届けします。

興味のある方はぜひお誘い合わせの上、御来聴下さいませようご案内申し上げます。

詳しいことは、チラシを同封しましたのでご覧になってください。あ、そうそう、みなさん力ぜには気をつけましょうね。それでは！（見澤）

発明工夫、COTFの2連発を終え、今年のACE活動もあとは総会を残すだけとなりました。今回は参加しやすいように会場を札幌市内にしたつもりだったのですが、まだ参加は10人あまり。もっと参加して！待ってるよ！温泉もあるよ（真駒内研修センターだから、「ゆとろぎ」か「とっぴー」に行こう！）

（青柳）

今年は雪が降るのが遅い。いつもならとくに冬なのに不思議である。最近、一週間があっという間に過ぎていく。昨日見たはずのテレビ番組がまた今日もやっているそんな感じなのである。これは、きっと毎日が充実しているからに違いない。多くの方と出会い、この1年が自分にとって有意義なものとなった。しばらくこんな生活が続きそう。発明工夫研究大会。皆さん御協力ありがとうございました。（尾崎）

感動的な授業が札幌で行われた。わずかに数週間の準備期間で、30人以上の協力者（教員は少数）がボランティアで参加して作り上げた。これはコンピュータネットワークの存在がなければ成し得なかった、という意味でも画期的な出来事だった。

授業者の尾崎先生が語っていた、「本質こそが最も重要である」という当たり前だが、装飾物と対立しがちな考え方を具現化していた。（高瀬）

ACE北海道は、新しいメディアと出会って4年になる。マルチメディアだの、インターネットだのいろいろなやってきて、映像も画像も音声も使えるようになって使い勝手も良くなったけれど、仕組み自体はそう変わっていないし、そろそろ飽きてきた。

大切なのは人間だ。はっきりしてる。こんなことを続けているのはやはり人間が好きだからなんだ。これほど面白いことはない。子供も、爺ちゃんも、ばあちゃんもみんな元気だ。

ぼくは、ちょっと元気がなくて腰が痛くなっているけれど、皆々と会っていると、また夢が浮かんできて単純にハッキリしてしまう。もうしばらく、気楽にのんびりやっていたいこうと思っている。（武田）

教育とコンピュータ利用研究会北海道支部

1997年11月25日発行